

こころの玉手箱 10月号



「嵐」に見るチームが成長する“4つのステップ”

今年度も後半に入り、3年生が部活動や生徒会本部役員の活動から引退し、下級生に次々とバトンが手渡されています。1・2年生は、3年生の意志を継ぎ、自分たちの部活動や委員会活動をさらによりよいものにしようと考えていることでしょう。今回のイ〜なの日、今年の年末、惜しまれつつ活動を休止する国民的アイドル『嵐』の姿を通して、「チームが成長するために何が必要か」について考えました。



☆ 1年生 ☆

- ☆ チームの一体感をより一層強くするためにできることを考えてみたら、大野さんの『今、目の前のことを頑張れないやつが、何をがんばるんだ』の言葉で、まず自分ができないことがあるなら仲間をとやかく言うことはできない。目の前のことをやりきりたいと思った。
- ☆ 僕は誰かと言合いになったときに対話をせずに逃げていたので、逃げずに話し合っただけで嵐のように仲間をサポートし合えるチームを作りたいと思いました。
- ☆ お互いがそれぞれの個性をわかって共生していくのはとても難しいと思いました。それでも逃げずにお互いの事を理解しようとした嵐を尊敬します。
- ☆ 一人ひとりにとっても大切な役割があることが分かりました。その役割を果たすためには誰かの力が必要だと感じました。私たちもそれを見習って、1-2の「和」を作っていきたいです。

☆ 2年生 ☆

- ☆ 20年間も活動しているなら絶対チーム内で誰かが誰かに対して不満などがあって、解散の危機などに陥ってしまうと思うけど、嵐はそれも大事な時間と受け止めているのがすごいと思うし、私も見習いたいです。
- ☆ 部活では今、この話でいうところの混乱期に入っているの、一人一人の個性を輝かせるように課題練習を増やしたり、アドバイスをしあったりするのが大切だと思いました。
- ☆ 私も自分ではできないのに、「なぜあの子はあんなに上手にできるの？」と悔しい気持ちになることがあります。でも、私にも私にしかできないことがあると思うので、それを見つけて、自分の役割を考えるヒントにしたいです。
- ☆ とても感動しました。僕たちの部活動は今、第4ステップにいると思います。1人1人が得意なポジション、テクニックなどを理解できるようになってきたからです。これからは、第4のステップの仕上げをしていきたいです。

☆ 3年生 ☆

- ☆ 大野君の「今、目の前のことを頑張れないやつが、何を頑張るんだ」という言葉がすごく心に残りました。チームのことを考えて、時には厳しく強い言葉をかけることができるリーダーと、支え合いそれぞれの役割を果たすメンバーがいるから、国民的アイドルグループになったんだなと思いました。
- ☆ 私は、最初からみんなの意見がまとまっていなくてだめだと思っていただけで、この話を聞いて、意見の違いなどで対立しても、みんなで話し合うことが大切だと思いました。以前、他のグループで「グループの誰かのケンカは全員で解決する」と聞いたことがあって、本当なんだなと思いました。
- ☆ 人は一人では限られたことしかできなくても、人が集まりチームができることで、想像していなかったものができることがわかった。集団の力はすごいと思った。
- ☆ 嵐のように、はじめはうまくいかず、あきらめかけたことが今までたくさんあったけれど、家族や友達、先生やたくさんの人たちに助けられ、支え合うことができたから、今の自分があるんだと、改めて思いました。。

保護者の皆さんへ

お子様と意見を交換して、感想などをお気軽にお寄せください。

-----切り取り線-----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

『嵐』にみるチームが成長する4つのステップ

令和2年 10/15実施

『嵐』はジャニーズの中でも活動期間の長いチームの1つです。彼らが長年に渡って活動を続けることができたのは、成果を出すチームが必ず通る”4つのステップ”をしっかりとクリアしているからです。今日は国民的アイドルにまで成長した『嵐』を例に、チームが成長する”4つのステップ”について考えましょう。

まず第1のステップ、【形成期（結成直後）】です。形成期とはチームが結成されたばかりの頃で、まだメンバーがお互いのことを理解し合っていないので、遠慮がちになり、緊張感も漂っています。まずはメンバー同士で十分にコミュニケーションをとる必要があります。彼らの場合、デビューするまでのジャニーズJr時代に互いを理解し合うためのコミュニケーションをとっていたのではないかと思います。

次に第2のステップ【混乱期（デビュー～5年まで）】。混乱期とは仕事のやり方の違いや意見のぶつかり合いが起り、対立が増える時期です。ここで逃げずにしっかりメンバー同士で対話ができれば、チームの結束力が高まります。逆に、ここでコミュニケーションを取らないと、チームはバラバラになってしまうでしょう。『嵐』の場合、1999年9月のデビューは華々しかったものの5年ほどCDリリースをしても「オリコン1位」を取れませんでした。あるメンバーがそのことに不満を抱き「今の仕事を全部辞めてしまいたい。」と言ったことがあったそうです。その時、リーダーの大野さんは、「今、目の前のことを頑張れないやつが、何を頑張るんだ！」と話しました。この言葉をきっかけにチームが一つにまとまり、苦しい時期を乗り越えられたのだそうです。ここで注目すべきは、対立してもぶつかり合うことを恐れず、対話を繰り返してチームの結束力を高めてきたということです。

そして第3のステップ【統一期（05年10月テレビ番組『花より男子』～）】。統一期は、お互いの考え方や強みを理解し合い、メンバー同士がチーム内の役割を認識しはじめる時期です。メンバーがそれぞれの個性や役割を理解することで、サポートし合ったり、苦手な部分を補い合ったりし始めます。『嵐』は2005年の『花より男子』による松本さんのブレイクをきっかけに、人気スターの地位を一気に獲得しました。この頃相葉さんは、『天才！志村動物園』をスタートし、二宮さんは映画『硫黄島からの手紙』で世界的に高い評価を得ます。また櫻井さんは、『NEWS ZERO』、大野さんは初の個展開催とメンバー1人1人がそれぞれの個性が生きる仕事に力を入れ始めたことによって、チームに勢いが生まれました。

最後に第4のステップ【機能期（2010年『紅白歌合戦』初司会～）】。機能期とは、メンバーそれぞれがプロフェッショナルとして主体的にリーダーシップを発揮し、チームがうまく機能するようになる時期です。この時期以降の『嵐』は、全メンバーがそれぞれの活動で力を発揮しながらも、ライブの時などに「嵐は俺たちにとって帰る場所」という発言が出るなど、チームとしての一体感がより一層強くなっていることが見てとれます。この時期は、各メンバーの役割が他の人々からも見て分かるのが特徴的です。松本さんはコンサートやイベントなど、チームが作り出すもののクオリティを上げるこだわりの人、相葉さんは誰からも愛されるムードメーカー、二宮さんはコミュニケーションでメンバーを繋ぐ役割、櫻井さんは幅広い仕事にチャレンジして『嵐』をアピールするチームのPR担当、大野さんはチームを支える大黒柱としての役割を果たしているように見えます。

このように『嵐』というチームは、メンバーそれぞれがプロフェッショナルとして主体的に動き、個性を輝かせながらも、節目節目でチームに戻り、他のメンバーをサポートし合っています。たとえ意見がぶつかり合ったりする時期があったとしても「今はチームが成長するために必要な時間だ」と冷静に捉えるようになり、チーム崩壊の危機を乗り越えられるのではないのでしょうか。

みなさんの学校生活でもクラスや委員会、また部活動の中で同じような場面に遭遇することがあるでしょう。1人1人がチームとは何か、自分はチームのために何ができるのかを『嵐』のメンバーのように考えて行動していけば、みなさんの”チーム”も更によりよいものになるはずです。

参考文献

- ・リクナビネクストジャーナル
- ・ジャニーズグループに学ぶ！フラット型組織時代における「チームビルディング」の作り方
執筆：石川香苺子

保護者からの声 『弥谷寺 昔話』

- 人のために我が身を犠牲にしてまでがんばった弘法大師は素晴らしい人だと思います。勝ち負けより、他人への思いやりは大事なことです。
- なぜ法力合戦をすることになったのか分かりませんが、人々の幸福を願う心が勝った弘法大師は芯の強い人だと感じました。自分の愚かさを認め詫言ることができた守敏大師も本当は心優しい人だと思います。正直な心、大切にすね。

いつもたくさんのご返信、ありがとうございます。紙面の都合上、ご返信頂いた感想の一部のみを掲載しています。ご了承ください。